|  |
| --- |
| 中小企業の動き（2020年１～３月期／業種別景気動向調査） |

「中小企業景況調査」（中小企業庁･独立行政法人中小企業基盤整備機構）によると、全国における2020年1～3月期の中小企業（全産業）の業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）は－24.4で、前期より3.3ポイント低下し、５期連続の低下となった（図１）。

業種別にみると、製造業は－27.4（前期より5.0ポイント減）となり、７期連続で低下した。非製造業は－23.5（前期より2.9ポイント減）と４期連続で低下した。製造業のＤＩの低下幅が非製造業より大きく、非製造業を３期連続で下回った。

非製造業を業種別にみると、「小売業」を除き、ＤＩが低下した（図２）。低下幅は、「卸売業」が5.8ポイント減と最も大きかった。

経営上の問題点は、「需要の停滞」がいずれにとっても１位、２位の課題であり、その割合も前期より高まった（図３）。「建設業」では、前期に２位であった「熟練技術者の確保難」、同３位であった「材料価格の上昇」に代わって、「民間需要の停滞」が２位、「官公需用の停滞」が３位となり、他業種と同様、需要の停滞が、主な経営上の問題点として認識されるようになった。

一方、「従業員の確保難」は、建設業、卸売業、サービス業で、依然として上位３位以内に入る問題点であるが、その割合はいずれの業種でも低下した。

2020年４～６月期の業況判断ＤＩ（全産業）は、－27.8で、今期より3.4ポイント低下の見通しとなった。

図１　中小企業の業況判断ＤＩの推移



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第159回中小企業景況調査（2020年1—3月期）」

（注）業況判断ＤＩは、「好転」企業割合－「悪化」企業割合。前期比季節調整値。

図２　非製造業の業種別の業況判断ＤＩの動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第159回中小企業景況調査（2020年1—3月期）」

図３　経営上の問題点（各業種３位まで）の動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第159回中小企業景況調査（2020年1-3月期）」